

令和5年度 赤目中学校区 小中一貫教育の取り組み

《目指す児童・生徒像》

なかまと繋がりあって、学ぶ楽しさや自己有用感を育むことができる児童生徒

推進委員会 (校長・教頭・担当者)

拡大推進委員会 (校長・教頭・担当者・部会長)

人権教育・地域連携部会

◎人権教育カリキュラム G

- 子どもの現状から「子どもにつけたい力」について中学校区としての共通理解を図り、中学校区で共通の観点を持って指導案の作成や授業研究を行う。
- 中学校区として子どもたちの実態、被差別部落につながる子どもや外国につながる子ども等、教育的に不利な環境のもとにある子どもの実態や課題を出し合い、その原因について議論し、子どもにつけたい力を明確にしていくことで、人権教育カリキュラムを再構築していく。

◎なかまづくり G

- 教育活動のあらゆる場面を通じて「差別をなくしていくなかまづくり」に取り組み、子ども一人ひとりが、不安や悩み、生きづらさ等を出し合い、支え合い、高め合える集団の育成をめざしていく。
- 子どもの学校での言動だけではなく、生活背景から教育課題を明らかにし、取組がその解決にどうつながったのかをレポートにまとめ、各校で研修を重ね、検証を行いながら取組を進める。

◎人権教育授業研究 G

- 一ノ井児童館を訪問し、被差別当事者との出会いから、部落差別をはじめとする個別的な人権問題をより深く学習する。偏見や差別のない社会の実現に向け、差別を許さない感性を養うとともに、身のまわりに潜む差別を見抜き、自他の人権を守るために実践行動ができる力をつけていく。
- 外国人の人権に係わる問題について学習し、多様性を尊重する態度や共生するための行動力を育成するとともに、外国につながる子どもが自らのアイデンティティに自信を持ち、まわりの子どもたちとよりよい関係を築けるよう、日常的にそれぞれのくらしや文化等を交流する活動を行う。

◎家庭地域との連携 G

- 地域の各組織と連携を図りながら保護者・地域住民と共に人権問題の解決に向けて取り組む。
- 各校がコミュニティ・スクールとして、「地域の子どもは、地域で育てる」という共通認識のもと、市総合防災訓練等に本中学校区的全児童生徒が地域の一員として参加している現状がある。各校の学校運営協議会において、人権についての課題を協議・熟議するなど、子どもたちの取組から地域のおとなも人権について学び、考える機会を持つ。
- 各校 PTA とも連携・協働を図り、保護者と子どもが人権について語る場を設定していく。

学力・体力部会

◎学力 G

確かな学力の向上	意欲的・主体的に学習に取り組む子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ楽しさを実感できる授業改善 ○学びを活用できる指導方法の工夫 ○「めあて」「振り返り」のある授業展開 ○言語活動の充実
----------	--------------------	---

◎体力 G

健康と体力の向上	運動の楽しさを知り、なかまとともに意欲的に運動できる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○体幹等を鍛える運動の推進 ○「できた」を実感できる授業改善 ○学びを活用できる指導方法の工夫 ○言語活動の充実
----------	-------------------------------	---

生徒指導・教育相談部会

◎生徒指導 G

人間関係力の向上	基本的な生活習慣を身に付け、児童・生徒同士や周りとのつながりを大切にする子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ運動やボランティア活動の推進 ○児童会・生徒会活動の充実
----------	---	--

◎教育相談 G

いじめの防止と不登校問題の解消	いじめを許さず、なかまと高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめを許さないなかまづくりの推進 ○児童会・生徒会活動の充実
-----------------	---------------------	---